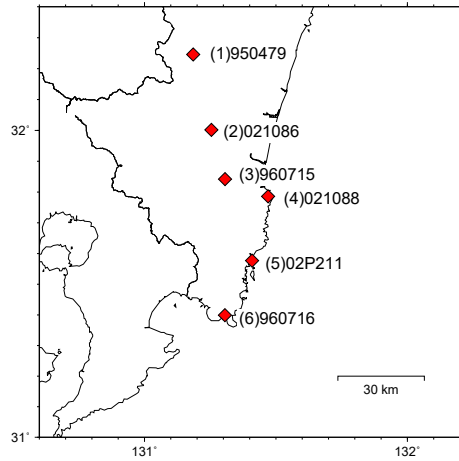
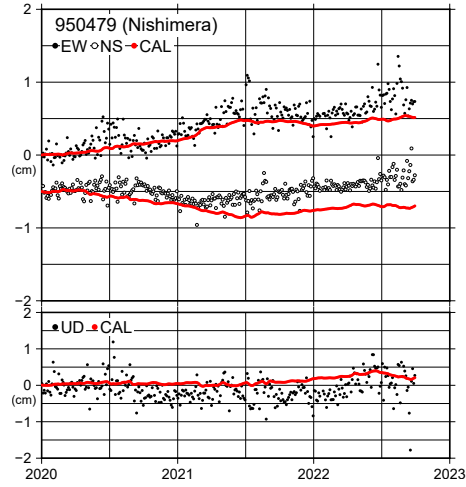


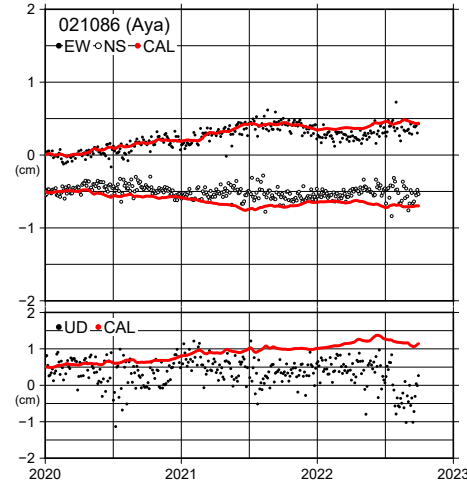
九州地域の観測点の非定常地殻変動時系列と計算値



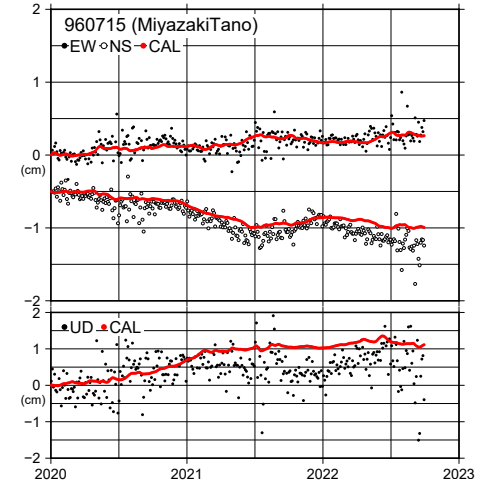
(1) 西米良



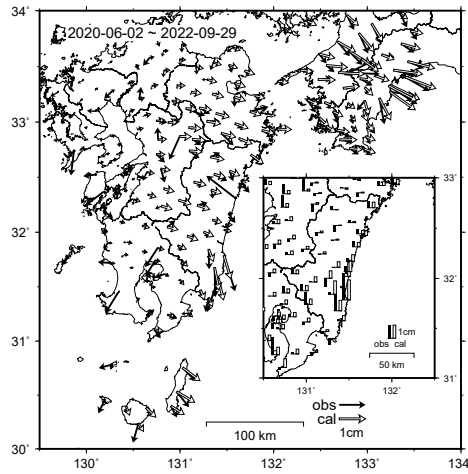
(2) 綾



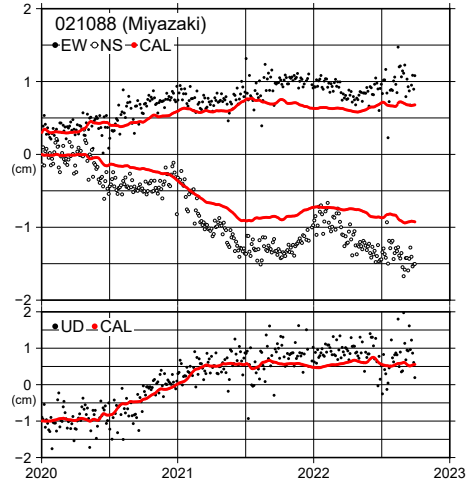
(3) 宮崎田野



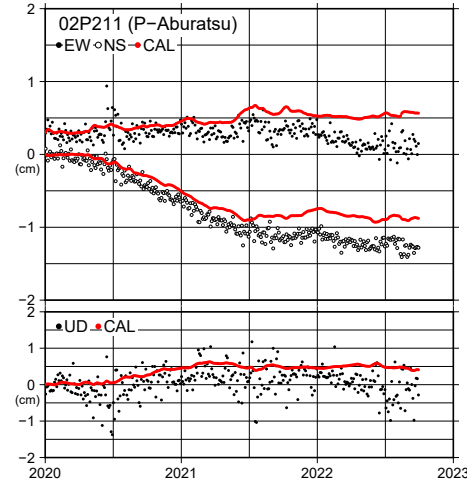
観測値（黒）と計算値（白）の比較



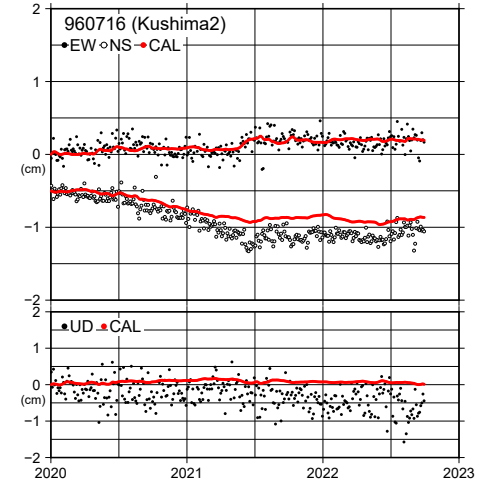
(4) 宮崎



(5) P油津

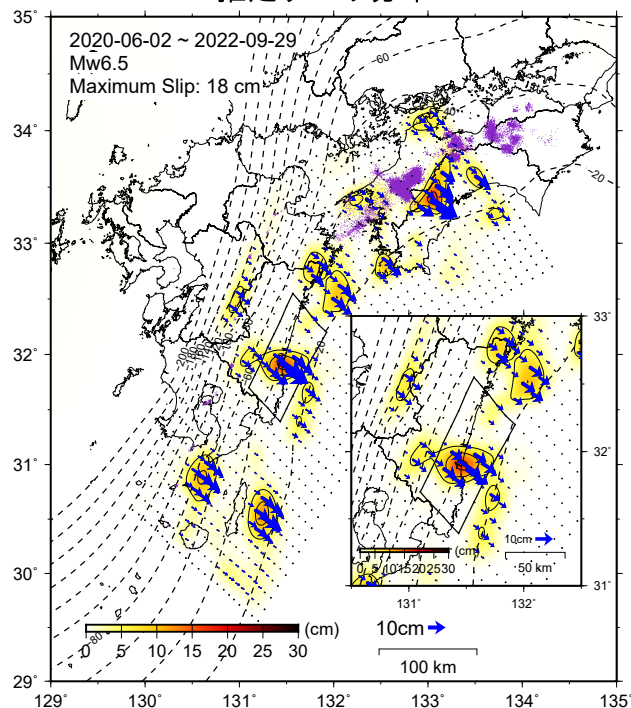


(6) 串間2

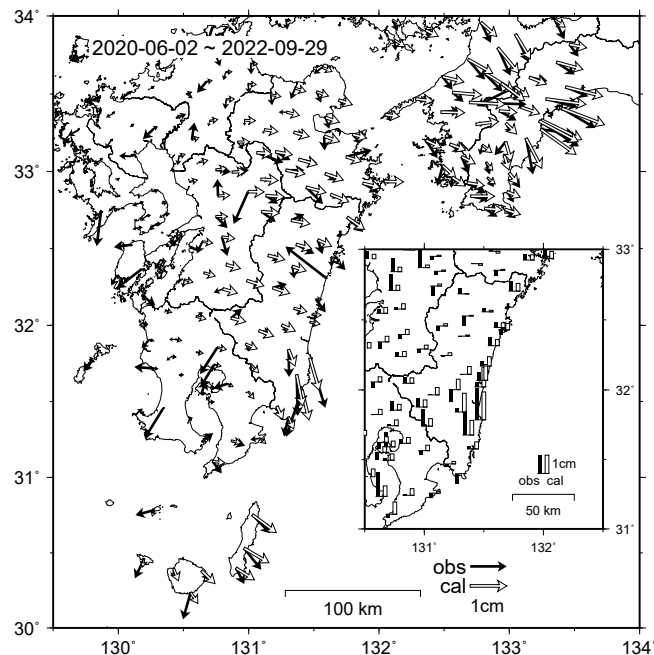


GNSS データから推定された日向灘南部の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布



観測値（黒）と計算値（白）の比較



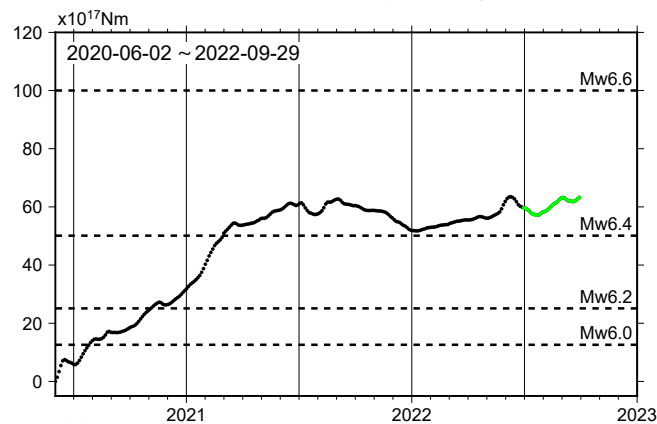
Mw 及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差（ σ ）の3倍以上のグリッドを青色表示している。

紫丸：低周波地震（気象庁一元化震源）（期間：2020-06-02~2022-09-29）
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線（Hirose et al., 2008）

使用したデータ：GEONET による日々の座標値（F5、R5 解）
※電子基準点の保守等による変動は補正済み
※平成 23 年東北地方太平洋沖地震および平成 28 年熊本地震の粘性緩和による変動を補正している。
※日向灘の地震（2022-01-22, Mw6.6）の地震時変動を除去している。
トレンド期間：2006-01-01~2009-01-01（年周・半年周成分は補正無し）
ただし、宮崎平野周辺は 2007-10-01~2009-03-01、
種子島周辺は 2008-03-01-2011-03-01。

モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3 日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束
固定局：三隅
※共通誤差成分を推定

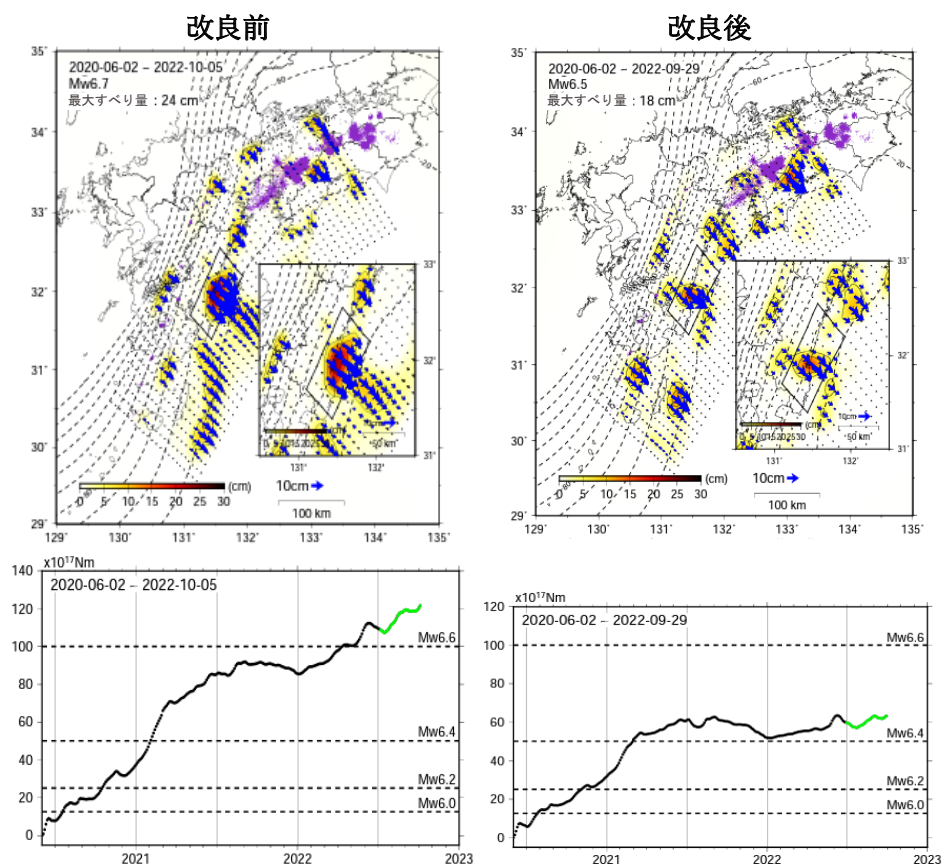
モーメント※時系列（試算）



※モーメント
断層運動のエネルギーの目安となる量。
地震の場合の Mw（モーメントマグニチュード）に換算できる。

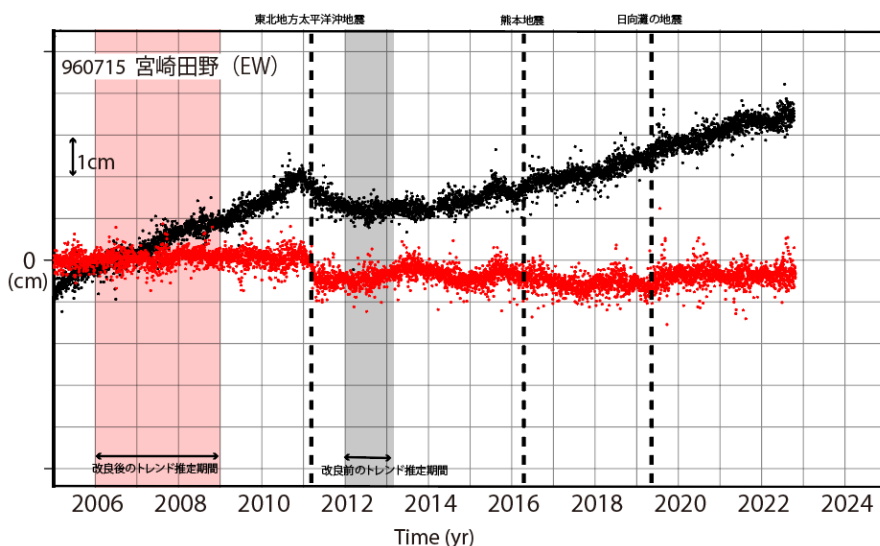
日向灘南部で2020年夏頃から発生していた長期的SSEについて、今回時系列データの処理手法を改良したところ、2022年春以降のすべりの増加傾向は見られなくなった。

累積のすべり分布図とモーメント時系列図【固定局：三隅】



(上) すべり分布図 (下) モーメント時系列図

非常常地殻変動時系列【固定局：三隅】



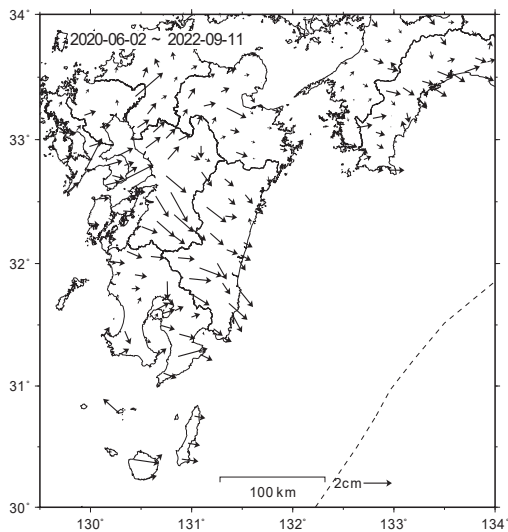
黒丸 (従来解析) : トレンド推定期間 2012年1月~2013年3月

赤丸 (改良後の解析) : トレンド推定期間 2006年1月~2009年1月

東北地方太平洋沖地震および熊本地震の余効変動をモデル計算により求め除去

累積の非定常地殻変動ベクトル図【固定局：三隅】

改良前



改良後

